

青翔

第23号

卒業生 9,359名
(令和5年度末日)

— 発行 —
高崎東高等学校
同 窓 会
— 印刷 —
松本印刷工業株式会社



教育目標
誠実 賢智 健康

● 主 な 記 事 ●

- 同窓会長挨拶
- 学校長挨拶
- 教育実習を終えて
- 1学期の主な出来事
- 進路状況
- 2024 高校総体・インターハイ予選結果
- 新体操部関東大会出場
- お知らせ・編集後記

<https://takahi-hs.classfellow.jp/>

同窓会長挨拶

同窓会長 福田 謙一郎



同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より同窓会の趣旨に賛同し、活動にご協力を頂きまして本当に有難うございます。

また、最近の異常な気候変動により本誌掲載の頃は、身体に危険が及ぶほどの暑さと線状降水帯の発生による水害や電害も多く気の抜けない季節となっています。どうぞご自愛くださいませ。

さて、昨年度に行われた40周年記念式典も皆様のご尽力により、お陰様で無事に執り行

われました。校舎も改修工事が行われ、教室側校舎はとても綺麗になりました。一新された制服は三学年まで着られるようになり、あらたな高崎東高校の象徴として内外に大きな印象を与えています。

41周年目を迎えて同窓会としても次代に向けて新たな展望を検討する段階に入ったのではないかと存じます。そこで今の状況を確認すると、本校開校時のクラス編成は、1学年6クラス体制でした。そして最大で8クラスになったこともありました。その後は徐々に削減され現在は1学年4クラスとなり

少子化の影響から今後もクラスが増えることは考えにくいです。同窓会にとって生徒数は、そのまま同窓会費の財源となります。ということ、これからの予算は今までの半分の拠出を前提に考えないといけないこととなります。県費予算は縮小され続けているため、老朽化した備品もなかなか新しいものを用意できずにいます。

本来は県費で対応しづらいうものを同窓会の援助のもとフォローするところですが、そういった事情から同窓会の資産を使う場合も、これからより慎重な対応を強いられることと

思われます。

今すぐに対処方法を考えるということは難しいですが、将来がある程度見える状況です。ので、今後も50周年記念・60周年記念と皆さんで高崎東高校を応援できる体制を作って次世代に襷を繋げていきたいと思っております。具体的なことについてはまだまだこれからですが、同窓生の皆さんからのお知恵を頂ければと存じます。

ちょうど今年にはコロナ以後、久しぶりにホテルメトロポリタン高崎で同窓会総会を行います。本来この場合は、同窓生の皆さんが同窓会に対して常日頃感じていることを意見していただく場でもあります。これからの高崎東高校を支えるために同窓会をどうしていったらよいか、総会にご

参加いただきお言葉を頂ければとてもありがたいです。また、総会後の懇親会では、よりラフな形での意見交換が出来ますのでそちらのご参加もお待ちしています。ちなみに懇親会の食事は同窓会でも一部負担させて頂いているので、通常よりワンランク上の食事が出来ます。そう言ったことから楽しんでくれる会となつていきますので、是非お友達同士でお誘いただいてご参加ください。

それでは、同窓生の皆さんの元気な顔が見られることを楽しみにしています。



学校長挨拶

校長 徳江 和彦



同窓会員の皆様には、お元気にてご活躍のこととお慶び申し上げます。皆様には、日頃より母校の発展のため温かいご援助を賜り、生徒・職員共々深く感謝しております。今年度、前橋女子高校教頭より本校に赴任いたしました高崎東高校第十七代校長の徳江和彦と申します。昨年度創立四十周年をむかえ、地域に信頼されている本校での新任校長としての勤務に身が引き締まる思いであります。また、父親の実家

が本校近くの高崎市綿貫町にあり、小さい頃より常慶橋付近を訪れていましたので、本校での勤務を非常にうれしく感じています。どうぞよろしくお願いいたします。また、今年度は同窓会総会開催の年であります。総会では、多くの卒業生の皆様とお目にかかり、お話を伺えることを楽しみにしております。

本校は現在、「地域社会に貢献できる」人材の育成を目指した教育を行っております。令和二年度より開始した『萌芽に芽ぶくプロジェクト』において、「地域」としての探究活動のより一層の充実により、自己を知り、他者を知り、物事を客観的に見る資質の育成を図ります。そして、自ら進んで行動し、社会と共生する能力を育成していきたいと考えております。

変化が激しく将来の予想が困難な現在の社会においては、一人一人が主体性を持ち、自ら考え、判断し、責任をもって行動していく必要があります。群馬県では、今年度「群馬県教育ビジョン」を策定し、人が誰しも生まれつき持っている自分と社会をより良くしようとする意思や原動力（これをエージェンシーと言います）を發揮して、自らの意志と選択で自ら学びをつくり、実際の行動に移せるようになるような教育を目指しています。生徒達には、指示されたことをこなすだけでなく、自分で考えて、周囲の人と話し合い、自分で決めて、自分で動き出す、自律的な学習者を目指してまいります。

今年開催された「第十四回青翔祭」は、多くの来場者を迎え、成功のうち幕を閉じることができました。生徒達は、クラス企画やステージ発表、部活動発表などで自ら進んで行動し、大いに盛り上がっていました。高東生の持てるパワーを実感することができました。伝統はしっかりと引き継がれております。

なお、令和五年度の進路実績と今年度の各部活動等の結果報告は、別掲の通りです。今年度も職員、生徒ともに努力を惜しまず全力で取り組んでいきます。毎年、生徒それぞれが各分野での頑張る姿は変わることなく、本校の伝統に結びついているものと感じてまいります。

最後になりますが、皆様には引き続き同窓会活動にご協力いただき、学校運営に対しまして特段のご支援を賜りますようお願いいたします。



教育実習を終えて



東海大学 文学部 歴史学科

中島 大昂

はじめに、校長先生、教科担当をはじめとする先生方、生徒の皆さん、2週間の教育実習を取り行っていたいただき、そして受け入れてくださるご配慮をどうもありがとうございました。

教科は日本史を担当させていただきました。はじめて生徒ではなく教師という立場で教壇に立ち、多くの学びを得ることとなりました。「教える」という行為は、知識の贈与ではなく相手が理解しやすいように、興味をもつように行うべきであると学びました。その点において私の足りなかった部分は、興味を持ってもらえるだけの工夫と、知識が不足してしまいました。自分が理解するには十分な知識があっても人に教えるという事は別で、あらゆる点で学問を理解していないと人に教えるという事は困難であると学びました。そういった困難にぶつかりながらも、授業を重ね、教科担当の先生にフイードバックをいただいたながら限られた回数の中でより良いものを作っていくことを努力しました。教科担当の先生が特におっしゃっていたのは教材研究の重要性で、実際に自分も行ってみたい教材研究には終わりがなく、知識は枝葉のように派生し膨大な情報があるからこそ、どの情報を切り取り、生徒に伝えていくかが重要であり、そこに教師としての力量が試される場面であると少ない経験ながらに感じることができました。それを含めた教材研究の重要性を教科担当の先生は述べていたのだと自分なりに考えました。また、授業見学や私の授業が終わった後先生が授業をするにおいて重きを置いていること、どうすれば生徒にとって有意義な授業になるのかご教授頂きました。先生の授業観というものは学校教育における授業のみではなく、人生そのものに活きてくるものだと感じたので、胸に刻もうと思いをします。

この教育実習で得たものは計り知れなく、教師として必要なことは勿論の事、私が今後生きていくにあたって必要なことを得ることができたような気がしています。それほど充実し、中身の濃い2週間となりました。これも、校長先生をはじめとする高崎東高等学校に関係する皆様のおかげなしには得ることは考えられません。ここに感謝申し上げます。



3週間の教育実習が終わり思うことは、「人生で一番短い3週間」でした。最初は3週間と聞いて長いと思っていました。が教材研究、指導案の作成、部活動に追われてあっという間に1日が終わりが、そして3週間が過ぎたという印象でした。反省や後悔はたくさんありますが、教育実習ではたくさん学べることができました。授業実習で指導・助言された中で印象に残っている言葉が「今日は何を教えたのか、何がポイントかを意識しながら授業を行う」ということでした。授業が思ったより進まなかった、分かったり教える事も大切だけれどチャレンジしてみなさい」との言葉をいただきました。私は本時の目標を考え授業を行っていましたが、目標の設定・考え方が不十分であると感じました。それだけでなく、この授業で生徒に何を覚えてほしいのか、何が重要であるかをしっかりと意識せず授業を行っていたと反省しました。生徒主体となるよう、発問を考えその発問から更に深い所まで持つて行けるよう、授業展開に取り組みました。教育実習を通して新たに得たものは、生徒の観察・理解度の定着を見る難しさです。体育の実技の授業では自分が想定したよりも生徒がハンドボールに全く触れることがなかったり、生徒がハンドボールを楽しむように進まないこともありました。生徒の理解が不十分であると感じたときはもう1回説明を繰り返したり補足説明を加えたりするなどクラスや生徒に合わせた臨機応変な対応が必要であると感じ実行しました。指導案通りに進めるのも大事ですが、それ以上に生徒が今日の授業で学んではいことを達成するために生徒に今何が足りないのかを授業をしながら探していく過程も授業中に必要なことであり、そのために生徒の観察や生徒への質問の投げかけ・コミュニケーションが非常に重要であると感じました。自分が保健体育という教科の楽しさを教え、その教えたことをもとに学んでいくと思うとやりがいのある仕事であると同時に、学びの入り口になる存在になるかと思うと大変責任のある仕事であると改めて感じました。それだけでなく、生徒指導・学級経営など様々な業務をこなす広い生徒を気にかけ、生徒が安心・安全に過ごせるような様々な面に気を配りながら行動していると感じました。生徒が主体となるよう、どのように振る舞えばよいかを常に考え行動されていると感じました。生徒との交流・コミュニケーションの仕方について努力すべきだと感じました。明るく大きな声で挨拶、自分から積極的に話しかけ会話をすすめるなど、人との関係を築くために何が必要かを考え自分から早く実行できるようにしなければいけないと思いました。また、自分が理想とする教師像・授業像に近づいたためこの教育実習で学んだことをもとに努力し続けていきたいと思えます。最後に、指導教諭の先生方をはじめとし、多くの先生方にご指導・助言をいただき、教員を目指す身として大きく成長できた3週間であったと感じています。本当にありがとうございました。



東京女子体育大学 体育学部 体育学科

櫻井 風羽



母校である高崎東高校での4週間にわたる教育実習は、私にとって非常に貴重な学びの機会であり、今まで知識として学んできたことを、実際に現場を通して実践し、経験させていただけ、非常に充実した教育実習となりました。私は養護教諭を志望しているため、保健室での実習に加え、保健体育科の授業も行わせていただきました。1クラス40人相当の前で50分の授業をするのは、この教育実習が初めてで、教育実習初日に初回授業をさせていただいた際、不安と緊張で頭が真っ白になってしまったことを今でも鮮明に覚えています。

保健体育科の授業を担当する中で、1つの授業を作るのにこんなに時間が掛かり大変なんだと教師の凄さを実感しました。また、授業回数を重ねていく中で、教科担当の潮田先生や土屋先生にご指導を頂きながら修正・改善を行い、どうしても生徒の興味関心を引き出せない、分かりやすく簡潔に説明するにはどうしたらいいのかなどを自己追求できる授業研究の面白さ、教職のやりがいも実感しました。

メインの保健室実習においては、専門職である養護教諭の業務の多さと重要性を実感しました。特に6月は検診が多く、ほぼ1日ばかりで検診を行っていた日もありました。様々な検診に参加させていただく中で、検診器具の使用法や滅菌法、検診準備について現場を通して、実際に行うことが出来てより深い学びに繋がりました。また保健室来室者対応については、大学で得た知識や技術を活かし、生徒一人一人と向き合い積極的なコミュニケーションを取りながら問診や視診を行うことを心掛けました。場合によってはどのような判断をするのが最適なのか分からず戸惑うこともありましたが、指導教諭の金岡先生のサポート、アドバイスをいただながら対応することが出来ました。また、他教職員や保護者との連携が不可欠であることも身に染みて感じました。

今回の教育実習を通して、担当クラスの2年1組の生徒だけでなく他学年・他クラスの生徒も登下校時や廊下ですれ違う時に挨拶をしてくれたり、話しかけてくれて非常に嬉しかったです。また文化祭等の行事にも参加させていただいたとき、授業中とはまた違う生徒の様子も見られて良い機会となりました。

最後になりますが、指導教諭の先生方をはじめとした多くの先生方にご指導・鞭撻をいただき心から感謝しております。皆様のご健康と高崎東高校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



東京福祉大学 教育学部 学校教育専攻

須貝 心咲

1学期の主な出来事

○入学式①



○入学式②



○対面式



○生徒会オリエンテーション



○学年オリエンテーション①



○学年オリエンテーション②



○青翔祭①



○青翔祭②



○青翔祭③



○野球応援



進路状況

令和6年3月卒業生進路状況

卒業生進路状況の推移

R5	国公立		私立		短大		専修・各種		就職		浪人		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	11	2	50	35	0	6	21	15	2	1	6	1	0	1	
	13		85		6		36		3		7		1		151
	8.6%		56.3%		4.0%		23.8%		2.0%		4.6%		0.7%		100%

R4	国公立		私立大		短大		専修・各種		就職		浪人		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	5	9	38	46	0	7	10	30	1	0	8	1	0	0	
	14		84		7		40		1		9		0		155
	7.4%		44.7%		3.7%		21.3%		0.5%		4.8%		0.0%		100%

R3	国公立		私立大		短大		専修・各種		就職		浪人		その他		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	11	6	57	33	2	10	22	42	4	3	2	2	3	0	
	17		90		12		64		7		4		3		197
	8.6%		45.7%		6.1%		32.5%		3.6%		2.0%		1.5%		100%

令和6年3月卒業生合格先

●国公立大学

群馬大学 福島大学 岩手大学 群馬県立県民健康科学大学 高崎経済大学 前橋工科大学 名城大学

●私立大学

育英大学 群馬医療福祉大学 群馬パース大学 上武大学 高崎健康福祉大学 東京福祉大学 前橋国際大学
 青山学院大学 神奈川大学 金沢工業大学 国士舘大学 駒澤大学 埼玉工業大学
 淑徳大学 城西国際大学 城西大学 東京女子体育大学 東京都市大学 日本医療科学大学 日本大学
 白鷗大学 文京学院大学 明星大学 立正大学 京都精華大学 国際医療福祉大学 国士舘大学
 埼玉工科大学 十文字学園女大学 順天堂大学 上武大学 城西大学 神田外語大学 仙台大学
 千葉工科大学 大東文化大学 拓殖大学 東京経大学 東京電機大学 東北医薬大学 東洋大学 日本女子大学
 日本体育大学 日本薬大学 武蔵野大学 武蔵野美大学 文教大学 獨協大学

●短期大学

育英短期大学 新島学園短期大学

●専修・各種学校

高崎ビューティモード専門学校 太田医療技術専門学校 太田情報商科専門学校
 大原ビジネス公務員専門学校高崎校 大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校
 グルノーブル美容専門学校 群馬県立農林大学校 群馬日建工科専門学校 高崎動物専門学校
 中央医療歯科専門学校 中央理美容専門学校 デジタルアーツ東京専門学校 東京デザイン専門学校
 東京電子専門学校 原宿ベルエポック美容専門学校 東日本デザイン&コンピュータ専門学校
 東日本プライダル・ホテル・トラベル専門学校 前橋医療福祉専門学校 前橋産業技術専門学校
 前橋東看護学校 代々木アニメーション学院 育英メディカル専門学校 群馬自動車大学校
 原宿ベルエポック美容専門学校 高崎医療附看護 専門学校東京アナウンス学院

●就職

ルネサス エレクトロニクス株式会社高崎事業所 大庄水産 オリエンタルランド

進路概況

令和5年度の卒業生は、男女比が2対1と例年と違い、男子の多い学年であった。総合型や学校推薦型など年内に合格する生徒も多かったが、例年よりも一般受験での合格者数が多かった。スロースタートが心配されたが、それぞれ目標実現のために、粘り強く努力を重ねた。大学進学者が増加し、短大、専門学校は減少し、就職者は3名のみであった。

2024 高校総体

蒼 天 高 く

○バレーボール部

3回戦 0-2 高崎高校 (ベスト16)

○サッカー部

1回戦 0-4 渋川工業

○新体操部

団体競技 16.450 関東大会出場

○男子バスケットボール部

1回戦 58-107 吉井高校

○女子バスケットボール部

1回戦 81-44 高北
2回戦 46-123 健大高崎

○女子テニス部

1回戦 0-3 新島学園

○ハンドボール部男子

1回戦 12-36 前橋高校

○ハンドボール部女子

1回戦 1-47 富岡高校

○剣道部

男子団体 2回戦 0-2 四ツ葉学園
男子個人 高井瑛斗 4回戦

男子個人 今 友喜 3回戦

男子個人 皆方俊太郎 棄権

男子個人 原口 率 2回戦

女子団体 2回戦 3-1 新島学園

女子団体 3回戦 0-5 農大二校

女子個人 小林莉子 1回戦

女子個人 浅見明可 1回戦

女子個人 湯浅瑠夏 1回戦

女子個人 臼田 雅 2回戦

○ソフトボール部

1回戦 0-16 高崎北

○野球部 (春季大会)

1回戦 10-0 大間々 7回コールド

2回戦 5-6 樹徳

○男子テニス部

個人 高久真弥 1回戦 (シングルス) (ベスト64)

個人 北爪大貴 1回戦 (シングルス) (ベスト64)

個人 櫻井・細谷 2回戦 (ダブルス) (ベスト16)

団体 1回戦 3-0 県央

団体 2回戦 1-2 新島 (ベスト16)

○水泳部男子

個人 木暮隼翔 50m自由形 28.06 29位

100m自由形 01:03.5 25位

2024 インターハイ 予選

○サッカー部

1回戦 0-4 高崎商業

○男子バスケットボール部

1回戦 70-49 板倉高校

2回戦 22-118 桐生高校

○女子バスケットボール部

1回戦 75-72 伊勢崎清明

2回戦 32-94 関東学園

○男子テニス部

個人 高久真弥 1回戦 (シングルス) (ベスト64)

個人 北爪大貴 1回戦 (シングルス) (ベスト64)

個人 櫻井・細谷 1回戦 (ダブルス) (ベスト32)

団体 1回戦 0-3 太田 (ベスト16)

○剣道部

男子個人 高井瑛斗 3回戦

男子個人 今 友喜 3回戦

女子個人 小林莉子 2回戦

女子個人 臼田 雅 2回戦

女子団体 1回戦 0-3 興陽

男子団体 2回戦 0-3 高崎

○野球部 (選手権大会)

1回戦 0-1 渋川青翠

○バレーボール部

2回戦 2-0 市立太田

3回戦 0-2 高崎高校 (ベスト16)

○新体操部

準優勝

○ハンドボール部男子

1回戦 13-29 前橋高校

○ハンドボール部女子

1回戦 7-23 桐生高校

○吹奏楽部

群馬県コンクール高校B銀賞

新体操部関東大会出場

私たちが過ごした「いつまでも大切にしたい時間」

新体操部部长 3年1組 藤巻 果子

私たち新体操部は同窓会の方々をはじめ、たくさんの方々からの応援を糧に、県大会を勝ち進み関東大会に出場することが出来ました。最大の目標であったインターハイの切符を手には出来ずに、悔しい思いをしたのですが、最後の最後まで粘り強く戦うことが出来、貴重な時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。

昨年度、北海道インターハイに出場させていただき、全国の高校生と戦う事ができ、かけがえのない時間を過ごしました。新体制となり、「来年も必ずこの舞台に立ちたい、大きな舞台で演技がしたい。」と目標を立てて日々の練習に励んでいました。しかし、部員が少なく、新入生が入らなければ団体競技に出場できないという状況で冬を過ごしました。今年度に入り、新入生が入ってきてくれ、新チームとしてスタートしましたが、他校から遅れをとっているなどの不安な気持ちがありました。たくさんの練習試合や県外強豪校との合同練習などを通し、チームとして力をつけて公式戦に望みました。新チームでの初公式戦となった高校総体は、緊張と不安に負けずに、仲間を信じて演技をすることができました。私たちが試合当日までに取り組んできた練習の成果をすべて出し切り、2位となり関東大会へ出場しました。東京都で開催された関東大会では、大きな会場で県外の高校生達と堂々と戦うことが出来、このチームでの経験をさらに積むことが出来たと実感しました。そこから2週間後のインターハイ予選まで、朝練習、昼練習、放課後練習と、時間のある限り練習に励みました。しかし、インターハイ予選でも2位となり、インターハイ出場には至りませんでした。チーム6名で、正々堂々と勝負した経験や、成長し続けるために練習に真剣に取り組んだ時間、そして悔し涙を流したことは、一生心の中に残り続けると思います。

高校3年間の部活動を通し、夢に向かって成長していくおもしろさ、楽しさを仲間とともに感じる事が出来ました。これまでのたくさんの応援、ありがとうございました。私たち3年生は引退をしましたが、後輩たちは来年度の山口インターハイに向かって始動しました。たくさんの方々の応援を胸にこれからも努力してまいります。



お知らせ

新型コロナ感染症のため、長らく開催されていなかった同窓会総会および懇親会を開催いたします。多くの会員の皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。

日時 10月19日(土) 17:00～ 総会
18:00～ 懇親会(会費 5,000円)

会場 ホテルメトロポリタン高崎

申込は同窓会ホームページからお願いします。申込締め切りは9月27日(金)とします。なお参加者が会場の上限に達した場合は期日前に締め切らせていただきます。

こんにちは、僕は30周年を機に生まれた高崎東高校オリジナルキャラクター。名前は「ヒガチュン」です。体は高東の色「萌黄色」の鳥です。胸にあるマークは赤・青・緑で各学年の色で、胸のぎざぎざは上毛三山を表しているよ。実は、後ろから見ると全身が「東」の文字に見えるんだ。普段は校樹であるけやきを食べながら、上手に飛べるように日々コツコツ練習を積んでいるよ。これから、高東生と一緒に頑張るぞ！



校歌

作詞 大岡 信
作曲 木下 牧子

一、春まだ浅き 上毛の

地平萌黄に 芽ぶくとき

ここ井野川の ほとりに

はや緑なす いのちあり

春秋三年 風ひかれ

あわが母校

高崎東高校

二、古墳の群れに 影深し

三名山を 見はるかす

利根の沃野に 根づきたる

文化をになう 誇りあり

春秋三年 月さやか

あわが母校

高崎東高校

三、競う日もあれ またともに

笑う日もあれ 学び舎に

櫻の校樹 めぐりつつ

心は遠く 天がける

春秋三年 とことわに

あわが母校

高崎東高校

編集後記

今年度も同窓会報『青翔』を発行する運びとなりました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、今後も母校の様子を適切にお伝えしていく所存です。酷暑の夏も終わりを告げようとしておりますが、皆様方のご健勝、益々のご発展をお祈り申し上げます。

(題字 初代会長 阿部 伸之)